

平成24年2月期 決算参考資料

米久株式会社
(東証一部：2290)

1. 当期の業績に影響を与えた主な項目

- 1) 加工品は、テレビCMを放映したソーセージコンシューマ商品が16%、デリカ商品も18%それぞれ売上高が増加
- 2) 豚肉・鶏肉の国産相場は上期は上昇、下期は下落し、通期では豚が1%下落、鶏は2%上昇
- 3) 輸入鶏肉は売上高27%増と大きく伸長も、11月以降相場が急落し、利益に影響
- 4) 7月に牛肉から放射性セシウムが検出され、相場が急落、震災以降の消費減退もあり売上に大きく影響
- 5) 加工品原料価格はハムが下落、ソーセージ原料は上昇
- 6) 為替(対USDドル)は平均8円の円高で推移、輸入調達コストが低下
- 7) 東日本大震災が発生、わが社への影響として、88百万円の特別損失を計上
- 8) 保有有価証券を売却し、456百万円の特別利益を計上
- 9) 当期において新たに中国最大の食料関連総合企業である中糧集团有限公司(COFCO)の食肉事業に参画、既存の現地パートナーとの中国養豚事業は合併を解消し、155百万円の特別損失を計上
- 10) 資産除去債務に関する会計基準の適用を受け、144百万円の特別損失を計上

2. 当期(平成23年3月1日～平成24年2月29日)の連結業績

| | 当期実績 | 前期実績 | 伸び率(%) | 前回(3Q)予想 |
|-----------|---------|---------|--------|----------|
| 売上高 | 140,796 | 136,049 | 3.5 | 145,600 |
| 営業利益 | 1,717 | 1,917 | 10.5 | 2,400 |
| 経常利益 | 2,018 | 1,999 | 0.9 | 2,500 |
| 当期純利益 | 1,359 | 1,220 | 11.4 | 1,280 |
| E P S (円) | 49.62 | 44.04 | - | - |
| R O E (%) | 3.6 | 3.3 | - | - |
| R O A (%) | 3.4 | 3.6 | - | - |

注1) ROAは事業利益(営業利益+営業外収益)にて算出しております。

3. 連結業績の推移

金額単位 百万円

| | 平成20年2月期 | 平成21年2月期 | 平成22年2月期 | 平成23年2月期 | 平成24年2月期 |
|--------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 売上高 | 166,046 | 172,613 | 168,717 | 136,049 | 140,796 |
| 営業利益 | 4,102 | 4,646 | 4,387 | 1,917 | 1,717 |
| 経常利益 | 4,103 | 4,635 | 4,539 | 1,999 | 2,018 |
| 当期純利益 | 2,189 | 1,001 | 2,863 | 1,220 | 1,359 |
| 純資産 | 39,805 | 40,666 | 37,191 | 37,756 | 37,430 |
| 総資産 | 77,465 | 83,903 | 61,371 | 61,262 | 63,610 |
| 一株当たり純資産:円 | 1,227.30 | 1,227.52 | 1,335.32 | 1,360.30 | 1,405.95 |
| 一株当たり当期純利益:円 | 76.18 | 34.85 | 100.09 | 44.04 | 49.62 |

4. 報告セグメント別業績の推移

金額単位 百万円

| | 平成23年2月期 | | 平成24年2月期 | |
|-----------|----------|------|----------|-------|
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 |
| 報告セグメント | | | | |
| 加工品事業 | | | 57,095 | 3,723 |
| 食肉事業 | | | 80,442 | 8 |
| 小計 | | | 137,538 | 3,731 |
| その他 | | | 3,258 | 0 |
| 合計 | | | 140,796 | 3,731 |
| 調整額 | | | - | 2,014 |
| 連結財務諸表計上額 | | | 140,796 | 1,717 |

注) 平成23年2月期はセグメント業績を開示しておりません。

5. 連結子会社一覧

金額単位 百万円

| 会社名 | 持分割合 (%) | 売上高 | 総資産 | 事業内容 |
|--------------------------|----------|---------------|---------------|-------------------|
| 米久かがやき(株) | 100.0 | 20,819 | 6,242 | ハム・ソーセージ・デリカ製品の製造 |
| (株)日宏食品 | 100.0 | 1,932 | 428 | ソーセージの製造 |
| 米久デリカフーズ(株) | 100.0 | 7,097 | 3,380 | 冷凍デリカ製品の製造・販売 |
| 国内加工品生産会社計 | | 29,849 | 10,051 | |
| YONEKYU U.S.A.,Inc. | 100.0 | 2,220 | 910 | ソーセージの製造 |
| 海外加工品生産会社計 | | 2,220 | 910 | |
| 米久おいしい鶏(株) | 100.0 | 10,666 | 3,731 | 鶏肉の生産・加工・販売 |
| (株)マルフジ | 100.0 | 1,752 | 337 | 牛肉の加工・販売 |
| アイ・ポーク(株) | 100.0 | 3,568 | 661 | 豚肉の加工・販売 |
| 大洋ポーク(株) | 100.0 | 2,605 | 487 | 豚肉の生産・加工・販売 |
| (農)広島県東部養豚組合 | - | 1,195 | 1,118 | 養豚 |
| 食肉供給会社計 | | 19,788 | 6,336 | |
| 御殿場高原 ビール(株) | 84.3 | 1,614 | 838 | 地ビールレストランの経営 |
| (株)平田屋 | 100.0 | 1,346 | 759 | 菓子の製造・販売 |
| その他の会社計 | | 2,961 | 1,597 | |
| < 連結子会社合計 > | | 54,819 | 18,896 | |

持分法適用関連会社2社

・加工品・食肉事業

MIY(株)

・食肉事業

ときめきファーム(株)

6. 当期の業績

(1) 売上高

加工品事業では、ハム等において主力製品が引き続き好調を維持し、ソーセージはコンシューマ商品が増加しました。また、デリカも主力商品が総じて好調に推移し、加工品事業の全てのカテゴリーにおいて売上高・数量が増加しました。これらにより、加工品事業全体は、売上高が2.2%、数量が3.3%それぞれ増加しました。

食肉事業では、まず豚肉は、前期におけるアイポーク㈱の事業拡大と大洋ポーク㈱の設立により国産の数量が増加するとともに、北米産冷蔵豚肉も好調に推移し、売上高・数量が増加しました。また鶏肉も、米久おいしい鶏㈱の処理羽数の増加などにより、国産・輸入品ともに売上高・数量が増加しました。一方、牛肉は、放射性セシウム問題、震災以降の消費減退の影響などを受け、売上高・数量ともに減少しました。豚肉・鶏肉の増加により、食肉事業全体では売上高が5.4%、数量が8.5%それぞれ増加しました。

以上の結果、当期の売上高は前期に比べ47億47百万円増加し1,407億96百万円(3.5%増)となりました。

(2) 売上総利益

単体において、消費低迷による低価格志向や市場競争激化による加工品の利益率の低下、また牛肉の不振、輸入鶏肉の相場急落の影響により、売上総利益率は前期に比べ0.4ポイント下落しました。

一方、加工品生産子会社では、米久かがやき㈱と米久デリカ㈱の統合、及びアイテムの集約などにより生産効率が向上し、ハム・ソーセージ等製造子会社の売上総利益が増加しました。また、プロイラー関連事業の米久おいしい鶏㈱も売上高の増加と、前半の国産鶏肉相場の回復を受け、売上総利益が増加しました。

以上の結果、当期の売上総利益は前期に比べ3億47百万円増加し195億61百万円(1.8%増)、連結の売上総利益率は0.2ポイント下落し13.9%となりました。

(3) 販管費、営業利益

単体では、人件費・保管料が減少したものの、販売数量拡大による運賃の増加などにより販管費全体は2.4%増加しました。また、新たな連結子会社2社(大洋ポーク㈱・(農)広島県東部養豚組合)による販管費の増加も影響し、連結での販管費は前期に比べ3.2%増加したものの、売上高に対する販管費率は売上高の増加により前年並みとなりました。

以上の結果、当期の販管費は前期に比べ5億47百万円増加し178億44百万円(3.2%増)となり、売上高販管費率は前期と同じ12.7%となりました。また、営業利益は2億円減少し、17億17百万円(10.5%減)となりました。

(4) 営業外損益、経常利益

営業外収益が前期に比べ1億25百万円増加、営業外費用は94百万円の減少となりました。

以上の結果、当期の経常利益は前期に比べ18百万円増加の20億18百万円(0.9%増)となりました。

(5) 特別損益、税金等調整前当期純利益、当期純利益

特別利益は保有する有価証券の売却などにより前期に比べ7億42百万円増加、特別損失は資産除去債務会計基準の適用や東日本大震災の影響、中国養豚事業からの撤退などにより3億8百万円の増加となりました。

これらの結果、税金等調整前当期純利益は前期に比べ4億52百万円増加の23億96百万円(23.3%増)となりました。また、法人税等は3億16百万円増加となりました。

以上の結果、当期純利益は前期に比べ1億38百万円増加の13億59百万円(11.4%増)となりました。

7. 次期業績予想の前提と主な取り組み

- 1) テレビCMの放映地域を拡大、ブランドの浸透とコンシューマ商品の増大を見込む
- 2) 当期に開設した四国営業所、南九州営業所が業績に寄与、さらに営業拠点を拡充し販売エリアを拡大
- 3) 食肉の国産相場は、当期からの下落傾向が続き、食肉生産子会社の業績に影響
- 4) 加工品の主原料価格は当期並みと見込むが、副原料価格は羊腸、資材等の上昇を予想
- 5) ハムソーセージ生産子会社は増産によるスケールメリットの確保により、増益と予想
- 6) 大龍事業の譲受もあり、デリカ生産子会社は増益を見込む
- 7) 為替レートは足元を勘案し、1ドル = 85円と予想
- 8) 米久おいしい鶏(株)は年間の処理羽数が鳥取事業所で43万羽、静岡事業所で90万羽、合計133万羽増加
- 9) 当期出資した中国事業は、拡大に向けた初期投資により償却負担が増加、次期は持分損失の発生を見込む
- 10) 有価証券売却益、震災損失、資産除去債務等、一過性の特益・特損による影響が解消

8. 次期業績予想

金額単位 百万円

| | 上 期 | | 通 期 | |
|-------------|--------|--------|---------|--------|
| | 金 額 | 伸び率(%) | 金 額 | 伸び率(%) |
| 売 上 高 | 78,000 | 14.5 | 160,000 | 13.6 |
| 営 業 利 益 | 1,000 | 4.9 | 3,100 | 80.5 |
| 経 常 利 益 | 940 | 12.3 | 3,000 | 48.7 |
| 当 期 純 利 益 | 450 | 39.2 | 1,450 | 6.7 |
| E P S (円) | 16.43 | - | 52.94 | - |

9. 設備投資及び減価償却費

(1)設備投資額 金額単位 百万円

| | | 金 額 | 主な内容 |
|-----|------|-------|--|
| 連 結 | 当期実績 | 1,778 | 加工品事業分野の製造設備更新等 5億39百万円 食肉事業分野の鶏肉処理設備及び排水処理設備更新 8億24百万円 |
| | 次期予想 | 4,213 | ハムソー生産設備増強 18億71百万円 米久おいしい鶏 鶏舎建物等 13億37百万円 大洋ポーク豚舎増改築 1億30百万円 |

(2)減価償却費 金額単位 百万円

| | | 金 額 |
|-----|------|-------|
| 連 結 | 当期実績 | 2,382 |
| | 次期予想 | 2,580 |